

JENESYS2020 日インドネシア・オンライン交流 (平和構築)の記録

1. 概要

【目的】インドネシアの青少年が、日本の伝統文化や歴史、宗教観に関する視察や意見交換を通じて、対日理解及び相互理解の促進を図ることにより、アジア地域の平和と安全に貢献することを主目的に、本プログラムを実施しました。

【参加者】インドネシアの大学生・社会人等 計71名

【訪問地】京都府、東京都、北海道、秋田県、岩手県

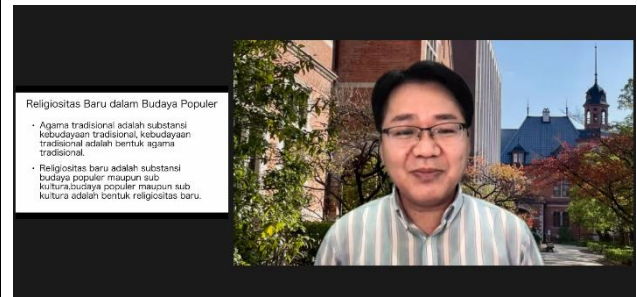
【日程】

日付 訪問地	内容	参加者の質問・反応
以下の参加人数：53名		
2021年 6月21日 京都府	【ウェビナー・質疑応答】 1. 開会 2. 在インドネシア日本大使館挨拶 3. JENESYS 事業概要説明 4. 講義 「Japanese Religions」 講師：同志社大学 神学部 教授 小原 克博氏 5. 質疑応答 6. 集合写真 7. SNS/アンケート案内、閉会	インドネシアのイスラム団体や大学に通う大学生を対象に、日本の仏教や神道の観念、アニミズム等における宗教観、日本の宗教、文化について理解を深める講義が行われました。質疑応答では、日本の宗教観の継承や変化、他宗教への考え方について質問があり、参加者は大変関心を持っていました。
以下7日間の参加人数：18名（以下のプログラムは他のプログラムと合同で実施）		
2022年 3月2日 ～	【動画視聴】 1. 外務省挨拶 2. 広島ピースツアー 3. 日本文化理解（京都） 4. ホームビジット体験	プログラムへの理解を深めるため、参加者は日本やプログラムに関する動画を視聴してから参加しました。
2022年 3月9日 東京都	【オリエンテーション】 【ウェビナー・質疑応答】 1. オリエンテーション	プログラムにおける参加者の役割・ミッションについての説明を熱心に聴講していました。講義中、頷いたり、メモをとる参加者

	<ul style="list-style-type: none"> ① 開会 ② 挨拶 在インドネシア日本国大使館 広報文化部 二等書記官 磯村 真太郎氏 ③ JENESYS 概要説明 ④ プログラム内容、ミッション説明 <p>2. 日本理解講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 講義 「Japan Today」 講師：SIMA 国際経営研究所 所長 ② 木村 秀夫氏 ③ 質疑応答 ④ 集合写真撮影 <p>3. グループオリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自己紹介 ② グループリーダー、副リーダーの選出 ③ 日程紹介 ④ アクション・プラン概要説明 	<p>も多数おり、とても真剣な様子でした。質疑応答では、「日本では高齢化が問題になっているが、政府はどのような対策を行っているか」等の質問がありました。この他、日本について、優れたアニメやゲームが身近な存在であったことその他、「桜が美しい国という程度の知識でしたが、歴史、文化、戦後の経済発展などの概要を知ることができた」との意見がありました。</p>
<p>2022 年 3 月 10 日 北海道小樽市</p>	<p>【自治体視察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 小樽市魅力発見バーチャルツアー <ul style="list-style-type: none"> ①小樽堺町通り ②ドローンを用いての小樽海岸エリアツアー ③小樽運河 2. 集合写真撮影 3. グループごとの振り返り 	<p>案内人にテンポ良く豊富な情報を紹介してもらい、参加者は熱心に聞き入っていました。また、所々のクイズには参加者が積極的に参加し、ツアー中には、小樽市への行き方、小樽市の最も美しい季節、名物料理、市民の職業やニシン漁について、たくさんの質問や感想がありました。</p>
<p>2022 年 3 月 11 日 秋田県仙北市</p>	<p>【ホームビジット交流】 秋田県仙北市</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 秋田県仙北市の紹介 2. ホストファミリー紹介（4 家庭） 3. ホームビジット交流 4. 代表家庭、参加者による挨拶 5. 集合写真撮影 6. 振り返り 	<p>2 階の客間に案内してもらい、参加者は外の雪景色に感動しながら、自身が泊まった際の様子を思い浮かべていました。地元の「笹っぱもち」づくりの実演では、現地で香りや味を楽しむことができず残念との声がありましたが、蒸し時間でインドネシアの文化についても紹介し、ホストファミリーからの良い反応が得られ、参加者は喜んでいる様子でした。実際に訪問してホストファミリーに会いたい、と何度も言っていました。</p>

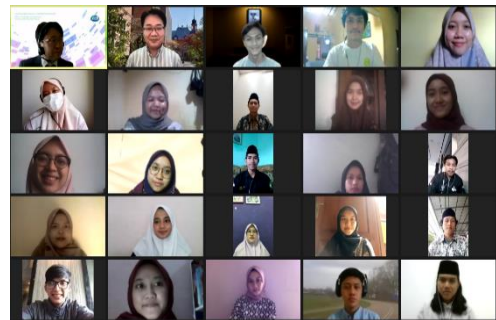
<p>2022年 3月12日 岩手県</p>	<p>【学校交流】 立教大学（東京都） 岩手大学、熊本大学、北海道教育大学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 岩手県陸前高田市の紹介 2. 日本側参加者自己紹介 3. インドネシア紹介 <ol style="list-style-type: none"> ① インドネシアの歴史的建造物 ② 東ジャワの文化 ③ インドネシア文化全般と宗教 4. グループ別交流 5. 集合写真撮影 6. グループごとの振り返り 	<p>初めて日本の若い世代との交流をすることができ、もっと話したいとの声もあり、楽しそうな様子が見られました。</p> <p>グループ別交流では、それぞれの国の学校生活や趣味など個人的なことに始まり、日本のお祭りなどの文化や、インドネシアについて知っていること、また気候変動に関する日本政府の見解について若い世代はどのように感じているかなどの質問がありました。日本の参加者、インドネシア訪日団ともに高い英語能力を有していたため、終始話が弾んでいた様子でした。</p>
<p>2022年 3月14日 東京都</p>	<p>【ワークショップ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全体説明 2. グループワーク <ol style="list-style-type: none"> ① 報告会プレゼンテーション資料作成 ② 発表練習 3. アンケート回答 	<p>2つのグループに分かれ、両グループとも活発なディスカッションを行っていました。一方のグループでは、社会人を中心にアクション・プランをまとめ、プレゼンターに若手の大学生を抜擢するなど役割分担をしていました。もう一方のグループは、休日にも自主的にミーティングを行い、十分な話し合いを事前に行っており、アクション・プランならびにプレゼンテーション資料作成を順調に進めていました。</p>
<p>2022年 3月15日 東京都</p>	<p>【報告会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. グループ別発表 3. 講評 4. JICE からのお知らせ、閉会 	<p>1つ目のグループでは、プレゼンターが民族衣装で正装をして発表に臨みました。他のグループのために制限時間を気にかけてつも、ワークショップでまとめたグループの意見をすべて伝えようと一生懸命発表する姿が印象的でした。</p> <p>2つ目のグループは、個々のアクション・プランに基づき、プログラムでの学びを散りばめた資料を作成し、わかりやすくまとめて伝えていました。役割分担も的確で、全員一丸となって作り上げたことがわかる発表となりました。</p>

2. 記録写真



2021年6月21日【ウェビナー・質疑応答】講義の様子

2021年6月21日【ウェビナー・質疑応答】講義の様子



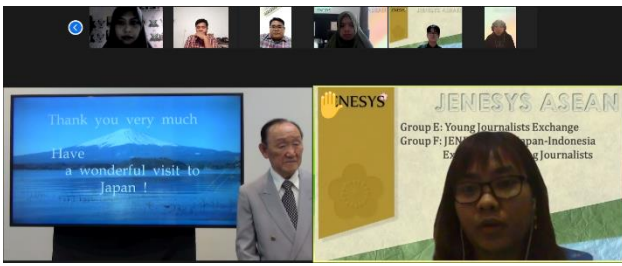
2021年6月21日【ウェビナー・質疑応答】質疑応答

2021年6月21日【ウェビナー・質疑応答】集合写真



2022年3月9日【オリエンテーション】

2022年3月9日【ウェビナー・質疑応答】講義の様子



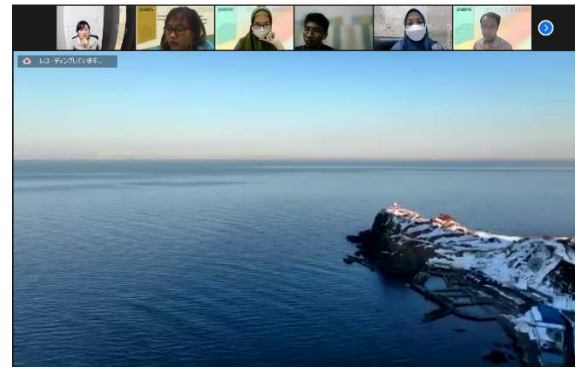
2022年3月9日【ウェビナー・質疑応答】参加者が講師に質問をする様子



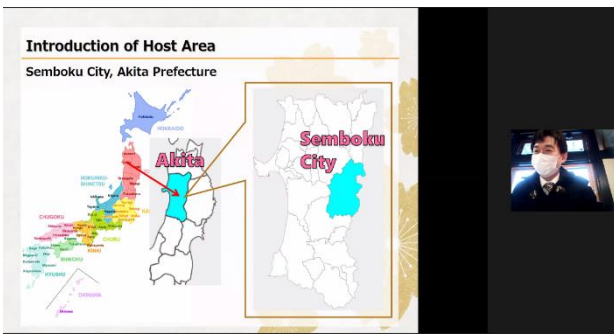
2022年3月9日【オリエンテーション】グループオリエンテーション



2022年3月10日【自治体視察】小樽堺町通りをガイドする案内人と見入る参加者



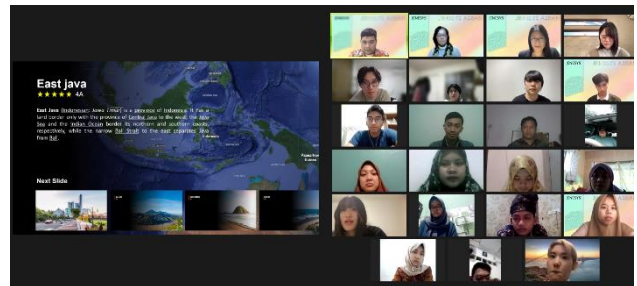
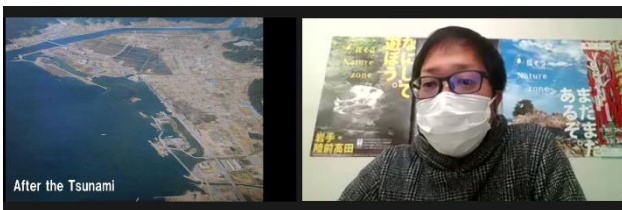
2022年3月10日【自治体視察】ドローンで小樽海岸を望む



2022年3月11日【ホームビジット交流】地域紹介の様子



2022年3月11日【ホームビジット交流】ホストファミリーと記念写真を撮影する様子



<p>2022年3月12日【学校交流】地域紹介の様子</p>	<p>2022年3月12日【学校交流】インドネシア側参加者による紹介</p>
	
<p>2022年3月12日【学校交流】集合写真</p>	<p>2022年3月14日【ワークショップ】グループワークの様子(1)</p>
	
<p>2022年3月14日【ワークショップ】グループワークの様子(2)</p>	<p>2022年3月15日【報告会】アクション・プランを発表する様子(1)</p>
	
<p>2022年3月15日【報告会】アクション・プランを発表する様子(2)</p>	<p>2022年3月15日【報告会】集合写真</p>

3. 参加者の感想(抜粋)

◆ 参加大学生

このプログラムに参加できたことを本当に感謝しています。このプログラムのおかげで、日本の宗教や、日本人がどのように宗教を行っているかについて詳しく知ることができました。これは私にとって非常に有益なことでした。

◆ 参加大学生

このプログラムは、異文化を学ぶ場でもあります。異文化を学ぶことは、適応を促すだけでなく、文化的な見識を広げることにもつながります。

◆ 参加大学生

日本について、特に宗教の面で多くのことを学びました。これまで世界平和や宗教間の関係改善が不可能だと思われていたことは間違いで、一緒に協力すれば実現できるのではないかと思います。また、このプログラムを通して、将来の世代の繁栄のために、インドネシアと日本の関係を強化することができます。近いうちに日本に行って、日本文化や建築物を見てみたいと思います。

◆ 参加大学生

日本はいつか行ってみたい憧れの国の一つで、勉強はもちろん、観光や文化交流をしたいと思っていました。今回の JENESYS で私たちのために用意していただいたプログラムに参加して、益々その思いが強くなりました。訪日団の一員として、またグループのリーダーとして、インターネット環境の脆弱なメンバーとも連絡を取り合い提出物の確認をするなど、積極的に参加することができました。このプログラムが今後も継続され、また私たちプログラム参加者が日本の文化を肌で感じられるように、すぐに日本へ旅立てることを願っています。このプログラムから刺激を受けるとともに、コーディネーターをはじめとする事務局の親切で迅速な対応に、どんどんやる気が引き出されました。私たちを魅惑する、美しい国、日本。またお会いしましょう。

◆ 参加大学生

JENESYS はとても印象に残るプログラムで、多くの情報を得ることができました。インドネシアと日本のお互いの文化を紹介し合ったことも楽しかったです。今後も多くの参加者がこのプログラムに参加できることを願っています。

◆ 参加大学生

今回の実施プログラムはどれも心惹かれるものでした。特に交流プログラムでは、個人的な交流ということもあり、私も含め皆熱中していました。もっと交流の時間が増えても良いと思います。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

スケジュールはタイトでしたが、参加者からよい質問をいただき、やり取りできる時間があつたのがよかったです。

◆ 講師

的確な問題点を捉えた質問を受け、講義をよく聞いてくださったと思いました。色々と JICE の皆さまのサポートを頂きました、感謝しております。ありがとうございました。


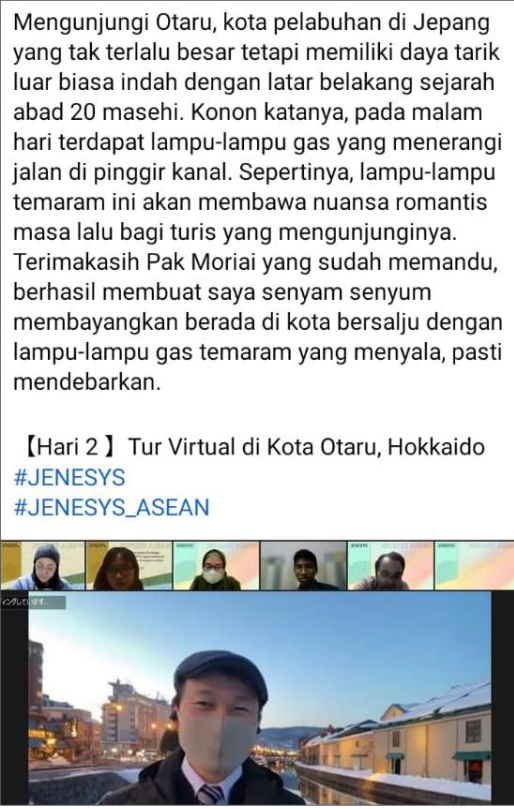
◆ ホストファミリー

新型コロナウイルス感染症の影響で久しぶりの外国の方との交流で不安でしたが、楽しく交流できました。素直で熱心そうな学生達で実際に会いたいと思いました。

◆ 交流校学生

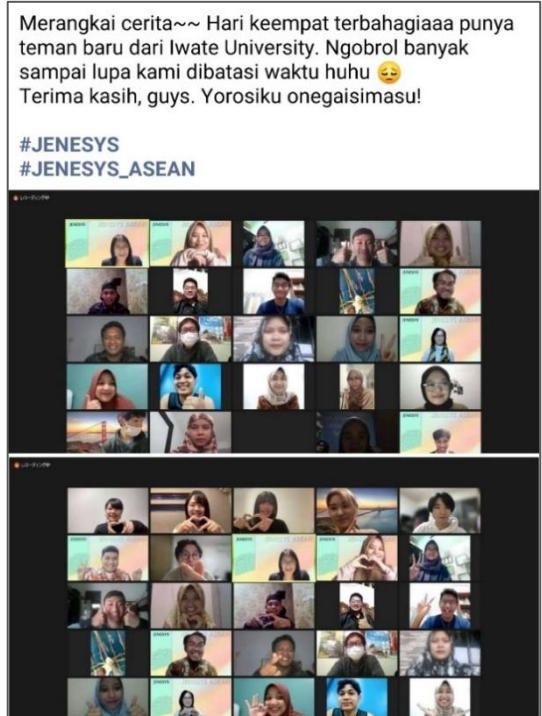
インドネシアの風土や歴史的な建造物などの話が非常に興味深く聞くことができました。また、日本の文化に興味を持ってくれて、話す側としても気持ちよかったです。今でも SNS を通じて楽しく会話を続けています。

5. 参加者の対外発信

 <p>I am very happy and enthusiastic about this program, hopefully this program can strengthen relations between Indonesia and Japan, especially in the field of education. 🙏🙏 Thank you JICE's International Exchange Programs #JENESYS2020 翻訳を見る</p> <p>6月21日 · 🌐</p> <p>【Understanding Japanese Religion!】</p> <p>"JENESYS2020 Japan-Indonesia Peace... もっと見る 翻訳を見る</p>	 <p>Mengunjungi Otaru, kota pelabuhan di Jepang yang tak terlalu besar tetapi memiliki daya tarik luar biasa indah dengan latar belakang sejarah abad 20 masehi. Konon katanya, pada malam hari terdapat lampu-lampu gas yang menerangi jalan di pinggir kanal. Sepertinya, lampu-lampu temaram ini akan membawa nuansa romantis masa lalu bagi turis yang mengunjunginya. Terimakasih Pak Moriai yang sudah memandu, berhasil membuat saya senyam senyum membayangkan berada di kota bersalju dengan lampu-lampu gas temaram yang menyala, pasti mendebarkan.</p> <p>【Hari 2】 Tur Virtual di Kota Otaru, Hokkaido #JENESYS #JENESYS_ASEAN</p>
<p>2021年6月21日 (Facebook)</p> <p>このプログラムが、インドネシアと日本の関係、特に教育の分野における交流の強化に繋がることを期待しています。</p>	<p>2022年3月10日 (Facebook)</p> <p>小樽に行きました。日本の港町で大きな町ではないけれど、20世紀の歴史がつまった素晴らしく魅力的な町でした。曰く、夜にはガス灯が灯って、運河沿いの道を照らすらしいです。薄暗いランプの灯りがまるで昔みたいで、訪れた観光客はロマンチックな気持ちになるみたいです。案内してくれてありがとうございました！おかげで、薄暗いガス灯が灯る雪の降る街にい</p>

る自分を想像できて、ずっとニコニコしていました。胸がドキドキします。

【2日目】小樽バーチャルツアー、北海道
#JENESYS #JENESYS_ASEAN



2022年3月11日 (Facebook)
3日目。ホストファミリーとお話できて、すごく嬉しかったです！今日のプログラムのホームビジットはとても盛り上がりました。家の中のお部屋を見せていただいたり、海苔巻きやいなり寿司の作り方を教えていただきました。海苔巻きを作るときには2時間も寝かせなければならないんですって。普通は緑茶と一緒に食べるらしいです。素晴らしい経験でした。

2022年3月12日 (Facebook)
話に花が咲きました～ 今日4日目。岩手大学の友人ができて、一番幸せな日になりました。時間を忘れるくらいたくさんお喋りしました。ありがとう、みんな。ヨロシクオネガイシマス！

6. 最終報告会でのアクション・プランの発表

グループ 1	
	<p style="text-align: center;">「日本の文化と伝統に触れる」</p> <p>■ 実施理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の文化と伝統をインドネシアへ紹介するため ・ 日本の文化と伝統についての情報を広めるため ・ JENESYYS プログラム／日本との学生交流について発表するため ・ JENESYS プログラムにおいて、日本の文化について理解を深めることができたため <p>■ 実施時期：3ヶ月間、毎月一度実施</p> <p>■ ターゲット：子ども、学生、大学生、一般向け</p> <p>■ 具体的な活動：ウェビナー開催・投稿やインスタライブなどソーシャルメディア上で情報共有・ディスカッション</p>
グループ 2	
	<p style="text-align: center;">「美しい国、日本」</p> <p>■ 実施理由：JENESYS プログラムに参加して得られた知見を深く振り返ることで、プログラムから得られた良いものを私たち自身の生活に取り入れるだけでなく、日本についてもっと広くインドネシアへ発信するため。</p> <p>■ 実施日：2022年4月3日、4月17日、5月1日、5月15日、5月29日、6月19日（隔週の日曜日に発信）</p> <p>■ ターゲット：インドネシアの人々、特にZ世代に向けて</p> <p>■ 具体的な活動：グループのソーシャルメディアにて写真、ポスター、インフォグラフィック、ビデオなどを投稿し、メンバーの個人アカウントにて拡散します。</p>

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター